

巻 頭 言

早稲田大学理工学術院，東北大学数理科学連携研究センター
日本数学会・学会担当理事
小 菌 英 雄

2020年の地球は100年に一度の人類の危機に見舞われています。年明け早々に新型コロナウイルス感染がイタリア，スペインをはじめとして欧州各地で拡大し，少し遅れて日本を襲ってきました。9月29日現在，日本の感染者数の合計は82,484人，その内回復者数75,459人，死亡者1,557人です。全国の大学では，前年度の卒業式と春の入学式が中止され，前期の授業はオンライン配信で開講するところが殆どでした。この10月になって後期が開始されましたが，引き続きオンライン配信によって授業を実施する大学が多く，半年以上経過した今日も新型コロナウイルスが大学教育，研究に与えた影響は計り知れません。日本数学会では，今年度の年会（春の学会）を日本大学で開催する予定を変更し，講演アブストラクトを提出することで講演成立としました。これは2011年度の年会（早大）に準じる措置で，東日本大震災の影響で止む無く現地開催を断念した9年前の記憶がよみがえりました。数学会では会員相互の学問的な交流を促進する目的で，会員限定で講演アブストラクトを年会の開催期間を含む2週間程度公開することに加え，アップロードも可能としました。

その後世の中は，外出自粛，臨時休校，在宅勤務が奨励され，楽しいはずのゴールデンウィークにはパンデミック回避が声高に叫ばれ，ロックダウンさながらの様相を呈しました。帰省の交通機関は例年の5%程度の乗客に減少，繁華街からは人影が途絶え，ホテルを中心とした観光業や飲食店が休業または営業時間短縮を余儀なくされました。更に7月開催予定であった東京オリンピック・パラリンピックの1年延期など，この間の閉塞感を助長する出来事は枚挙に暇がありません。一方，大学の出張規制や集会の開催制限に呼応して，数学界では多くの研究集会が中止またはオンライン配信となり，今日に至っています。その様な世情もあってこの9月に熊本大学で開催予定であった秋季総合分科会は，現地開催は行わずオンライン配信となりました。前回の日本大学の年会では講演アブストラクトの公開に留まりましたが，今回はそれに加えて講演スライドも会員限定で公開し，ダウンロードも可能としました。更には受賞講演および総合講演を録画にて学会期間中に配信し，ほとんどの企画特別講演，特別講演をZoomやYouTubeで視聴できる様にしました。このことは数学会にとって初めての試みであり，関係者の皆様，特に分科会・特別セッションの評議員・責任者

の方々及び情報システム運用委員の方々の多大なご尽力無くしては実現しませんでした。ここに学会担当理事として改めて感謝する次第です。

ところで私は、数学は研究者間の討論によって研究が進展する学問という考えを持っています。それ故に、研究集会は講演者の研究成果の発表に加えて、講演後の質疑応答や参加者同士の議論、また懇親会における研究交流、情報交換などを提供してくれる貴重な機会です。勿論、研究者自らの試行錯誤の繰り返しと、たゆまぬ努力や情熱が学問の発展に不可欠であることは論を待ちません。しかし実験のない数学にとって研究集会は、とりわけ重要な研究手法と言ってもよいのではないのでしょうか？ 実際、欧州では滞在型の数学研究所として、Mittag-leffler 研究所、Oberwolfach 研究所、Banach センター、CIRM がよく知られていますが、年間を通して多くの研究集会が開催されています。日本人研究者もこれらの研究所を訪れ、一週間の滞在中を通して少なからず利益を得た経験があるものと思われます。残念ながら、現在の世界規模でのコロナウイルス感染拡大に伴い、これらの研究所は目下のところ閉鎖しています。しかし、最近の合言葉“with Corona”に象徴される様に、いつまでもこの状況を嘆いていることは出来ません。国内外を問わず、現在では研究集会やセミナーは、Zoom を主な通信手段として、講演者、座長に加えて参加者を招待する双方向のライブ配信が積極的に実施されています。

この様な状況下で数学会は、9月22日の評議員会で次回の2021年度・年会（慶應義塾大学）も現地開催は行わず、オンライン配信で実施することを決定しました。これまで講演アブストラクトとスライドの公開に留まっていた一般講演を Zoom Webiner でライブ配信することを現在検討中です。更には評議員会、各種委員会も Zoom によって期間中に開催することをも視野に入れています。日本数学会の年会、秋季総合分科会は11の分科会・特別セッションから構成され、参加者は延べ数でおおよそ2,000人程度です。それ故、一般講演をも含めた動画のライブ配信を行うためには、多くの準備が必要です。その際、評議員、開催校・慶應大のスタッフをはじめ会員の方々のご協力が不可欠であることは言うまでもありません。オンライン配信は対面形式ほどではないものの、この間にかかなり精度が向上した様に思えます。従って、現状では考え得る次善策といえるでしょう。2021年に延期された東京オリンピック・パラリンピックの開催を願うと同様に、理事会では同年度秋季総合分科会（千葉大学）を可能な限り通常の対面方式で開催することを計画しております。数学会会員が一致団結してこの難局を乗り越えたいと思います。どうか皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。